

令和 4 年度普及指導計画プロジェクト課題実績 概要

令和 5 年 2 月 3 日 石巻農業改良普及センター

課題名	計画期間	対象(地域等)	概 要
1 産地を形成する多様な担い手のステップアップによるイチゴの産出額向上 「園芸振興」 「アグリテック」関連課題	令和 4 年度 ～ 令和 6 年度	J A いしのまき 共販部会： 石巻苺生産組合(16 戸) 河南いちご生産組合(13 戸) やもといちご生産組合(7 戸) (株)いちごランド石巻(石巻市) (株)アグリバレット(石巻市) (株)トライベリーファーム(石巻市) (株)黄金ファーム(石巻市) (株)イグナルファーム(東松島市) (株)サンエイト(東松島市) (株)アソラ(東松島市)	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、高齢化により栽培者数・面積が減少、これに伴い販売額も減少傾向にあるが、需要が底堅い品目で単価も比較的安定している。 環境測定機器の導入等、新たな取り組みの動きがあり、栽培技術の向上により収量、販売額の増加が期待できる。 農業法人による先端技術を用いた栽培が行われている一方で、いちごを新規品目として取り入れる農業法人の動きがある。 <p>【活動事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> JA 部会への環境制御等新たな技術普及支援 各農業法人の課題改善支援 新規参入者への基本技術指導 <p>【R4 年度の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境測定装置を導入した JA 部会員は、環境制御技術による栽培を開始、この他、新たな技術改善(土壌消毒、CO₂施用等)により R4 年産 4.0 t/10a (R3.8 t/10a) と向上。 各法人の課題点、重点的に取り組むべき目標が整理され、改善に向けた取組が始まった。 新規参入法人については、基本技術の習得が進み適切に栽培管理されている。
<p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> いちご販売金額 R3 : 71.5 千万円 → R4 : 76.3 千万円 → R5 : 81.1 千万円 実績 (79.5 千万円) → R6 : 85.8 千万円 			
2 地域のモデルとなる園芸法人の育成強化 「園芸振興」 「アグリテック」関連課題	令和 4 年度 ～ 令和 5 年度	(有) サントマト石巻、 (株) DannyFarm (株) 絆絆ファーマーズ	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題対象の 3 法人は、県の事業を活用して新規にハウスの設置や複合環境制御装置を導入。 各法人とも、新品目や機器類の導入が間もないため、栽培管理が安定するまで技術的支援や導入機器の活用法、経営安定化支援等のサポートが必要となっている。 <p>【活動事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産技術高度化支援 効率的な生産管理体制支援 <p>【R4 年度の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> (有) サントマト石巻 病害虫に関して、次作への対策を行ったことで、前年より発生が抑えられた。 環境データ、生育調査によるウィークリーレポート作成支援により、新規導入機器による環境制御技術が定着しつつある。 (株) DannyFarm 現地視察を通して、収量向上を目指した仕立て方の工夫が始まった。 専門家(中小企業診断士)の指導により、月別の収支計画の必要性が認識された。 (株) 絆絆ファーマーズ 周年栽培における生産管理技術の必要性を認識し、データが収集、整理された。
<p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 4 年度 → 出荷量 基準年比 105% 令和 5 年度 → 出荷量 基準年比 110% (有) サントマト石巻: 大玉トマト (令和 2 年度実績 11t/10a) 令和 3 年 8t/10a (72%) (株) DannyFarm: 施設なす (令和 3 年 6~11 月実績 4.5t/10a) 令和 4 年 5.3t/10a (117%) (株) 絆絆ファーマーズ: ほうれんそう ほか葉物 (令和 3 年 8~12 月実績 0.9t/10a) 令和 4 年 1.3t/10a 			
3 地域活性化に向けた高収益作物(アスパラガス)の導入・定着 (継続課題) 「園芸振興」関連課題	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度	アスパラガス研究会 (20 経営体)	<p>【前年度までの実施状況・今後の改善方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> アスパラガス栽培管理勉強会の実施により生理生態への理解と採りつきり栽培の技術習得が図られ、栽培面積は 54 a と増加してきた。 農協や市場等と連携した販売戦略会議により、直売等を中心とした販売戦略が共有化された。 採りつきり栽培のみならず、出荷時期の拡大を目指したパイプハウスでの立茎栽培への関心が高まってきた。 <p>【活動事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術習得による安定生産 直売・市場出荷等の販売力向上 ネットワークの向上によるアスパラガスの導入定着 <p>【最終成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 採りつきり栽培を通して、アスパラガス栽培への関心が高まるとともに、地元産アスパラガスの認知度が向上した。 出荷時期の拡大を目指し、水稻育苗ハウスや薬物野菜ハウスからの転換により、新たにハウス立茎栽培が始まった(約 10 a)。 露地の採りつきり栽培と長期安定出荷ができるハウス立茎栽培の組み合わせにより、産地化の足がかりができた。
<p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> アスパラガス栽培面積 R1 : 2a → R2 : 25a → R3 : 50a → R4 : 100a 実績 (47a) (54a) (91.5a) 			
4 長面地域における大規模経営体の持続的な水田農業の実現 「農地中間管理事業」 「アグリテック」関連課題	令和 4 年度 ～ 令和 5 年度	(株) 宮城リスタ大川 (株) ゆいっこ (農) みのり	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災による被災水田は、令和 3 年度に全ての水田が復旧したが、一部の復旧農地では地力が低く、収量の低下が課題となっている。 令和 3 年産米概算金の大幅な下落により、主食用米に加えて、飼料用米、WCS 用稲の収量向上が不可欠である。 耕作面積の拡大により、作期や労働力の分散、低コスト化への取組が必要であり、乾田直播栽培等の省力化技術の導入が必要である。 <p>【活動事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飼料用米の栽培技術向上支援 飼料用米乾田直播栽培の導入支援及び効果の検証 飼料用米・WCS 用稲導入効果の検証支援 <p>【R4 年度の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飼料用米の栽培では、施肥体系として堆肥 2 t (/10a) + 速効性 + 緩効性肥料の組合せが、収量性と土づくりの観点から最も優れると考えられた。 飼料用の乾田直播栽培では、大豆後であれば、水稻後よりも基肥量を低減できることから、コスト削減に有効であることが確認された。 WCS 用稲の栽培では、ほ場の過転圧等による硬い地盤の問題により根が張れない、生育が揃わない等の障害が生じた。関係機関と連携を取りながら、課題の改善に取り組んでいく。
<p>【数値目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 沿岸部の地力の低い水田地域における飼料用米の収量 R3 : 457kg/10a → R4 : 480kg/10a → R5 : 500kg/10a 実績 (538kg/10a) 			